

平成15年度福井県経済社会活性化戦略会議第1回会議概要

日 時	平成15年7月28日(月)	16:00~18:10
会 場	県庁7F	特別会議室
出席者	西川 一誠	福井県知事
	上野 清治	小浜海産物(株)代表取締役社長
	新町 光示	(株)ジャルパック代表取締役会長
	竹内 幸雄	農業経営者
	堀田 健介	モルガン・スタンレー・ジャパン・リミテッド会長
	前田 征利	前田工織(株)代表取締役社長
	吉岡 隆治	第一織物(株)代表取締役社長
	吉野 浩行	本田技研工業(株)取締役相談役

会議内容

【開会】

[知事挨拶]

今年度の福井県経済社会活性化戦略会議の第1回目の会議を開催するに当たり、皆様には委員を快くお引き受けいただき、また、ご多忙の中会場にお越しいただき誠にありがとうございます。心から厚くお礼申し上げます。

私は、知事選挙でマニフェストを掲げまして「福井元気宣言」として、福井の産業の元気を第1の課題に取り上げたところです。

福井県の農林水産業を含む産業全体の活性化するための大胆な政策を、何とか活力を産み出したいという思いで公約とし、全力で知事として仕事に取り組んでいるところです。

福井県は女性の就業率が全国1、2位を争うということで、大変勤勉な県民性であります。また、繊維や眼鏡、機械などの産業をリードし、これを担ってきた多くの独自性のある技術の蓄積があります。

しかし、最近においてはグローバル化の波の中、またデフレの中、厳しい環境にあります。

こうしたいろいろな問題を何とかして解決したいということで、各界から経験と知識の深い委員の皆様にお集まりいただき、自由に議論していただくことにより、本県として早急に取り組むべき実践的な経済戦略や中長期的な本県の産業政策の方向性について提言をいただきたいと考えています。

県といたしましては、当会議から提言を受け、年内をめどに、県としての「戦略構想」を策定したいと考えておりますが、当会議の議論の過程で提案された具体的な施策については、実施できるものから速やかに実行に移していきたいと考えています。

また、産業の活性化や雇用の確保を図るに当たっては、地方だけで解決できない問題もあると思います。こうしたものについては、積極的に国に対して提言や要請を行っていききたいと考えています。「地方から国を変える」という気

持ちで、忌憚のないご意見をいただきたいと考えています。

一方、「戦略構想」策定後は、直ちに実施に取り組み、その進捗状況を当会議に報告するとともに、県民の皆様にもわかりやすく公表したいと考えています。

今後、委員の皆様には、短い期間に集中して議論していただくことになると思いますが、よろしく申し上げます。

【委員紹介】

【議長、副議長選出】

議長 前田征利 前田工織代表取締役社長
副議長 山本雅俊 福井県副知事 を選出

【委員自己紹介】

議長： それではまず、自己紹介をお願いします。

委員： - 経歴紹介略 - 観光産業は、日本全体としてひとつの戦略産業としたい意向を持っており、総理の諮問機関であります経済財政諮問会議においても国として観光産業の振興を図っていきたいと、地方においても観光産業を主要産業に取り入れて行こうとする流れが大きなものになっています。観光産業をPRすることで県の知名度を上げていこうとか、イメージアップを図ろうとか、そのような目的で行われているのではないかと考えています。長期的に見れば、福井県も知名度を上げ、イメージアップを図り、福井に行ってみたいという人を増やしていくことが重要ではないかと考えています。戦略会議においては、いろいろな角度から意見が述べられると思うが、こうした視点からのイメージ戦略を検討していきたいと考えています。

委員： - 経歴紹介略 - 資料を見せていただくと、福井が抱えている課題や実施しようとしていることは日本の課題と同じです。私は技術畑出身の人間であるし、日本経団連や総合科学技術会議で産学官連携の推進役として取り組んでいます。国立大学が独立法人に移行する時でもあるし、中国の低賃金に対抗するのはやはり技術力だと思うので、今回の任務については、いかにこの地域で産学官連携の成果を上げていくかという点で貢献できるかなと考えています。

委員： - 経歴紹介略 - 今回のテーマですが、問題提起も含めて言わせてもらいます。まず一つは、飛行機の中で読んだ雑誌に載っていましたが、「福井県はどこにある、認知度なしは教科書のせいだ。」と書いてある。福井は原発など暗いイメージがあるので、明るいイメージアップが必要となるのではと考えています。国際的に活躍するような有名なデザイナー、プロデューサーなど

に福井県のイメージアップについて聞くと、どこかヨーロッパの都市と姉妹提携して誰か連れてくるとか、そういうスケールでイメージアップを考えていくことが必要ではないかと思います。

二つ目は、特区について、「電力供給特区」を考えていったらどうか。福井県は大量の電力を供給しているので、電力を大量に消費する企業を誘致し育てるとか、特別なインフラ整備に配慮するとか、環日本海やヨーロッパのデューティフリー・アウトレットゾーンを作るとか、こういう発想があってもいいのではないかと思います。

3点目は、雇用については雇う側と雇われる側のミスマッチが大量に発生しています。雇う側が欲しい人材と雇われる側が望む企業が合っていない。雇用のミスマッチと同時に、福井県内には外国人研修者も他県に比べ比率として多いといわれる。1度調査してみる必要があると考えています。

4点目は、県立大学と県産業支援センターが行っている中小企業経営革新フォーラムは非常に素晴らしい内容であるので、県立大学ビジネススクールとマッチさせて、よりスケールを拡大させ、小さな企業、中小企業にも展開させると、起業率が上がるのではないかと考えています。

最後に、県民が県を支えるという発想から、無利子県債を発行し県民が県のオーナーになるという考え方があってもいいのではないかと。買った人に税を優遇するとかして、1千万円単位で発行すれば1～5百億円くらいはすぐ集まるのではないかと。交付税等の問題はあるのかもしれないが、県として、そうして財源づくりをするなどダイナミックにやらなければ変わらないのではないかと考えています。

委員： 私は、委員に選ばれた理由を、福井の主要産業である繊維産業を続けているから、もう一つは、中小企業の代表として呼ばれているのではないかと考えました。

また、青年会議所運動の中で1989年から10年間ほど福井の宝さがし運動を行ってきました。福井県は、大切なシーズをもちながらそのままの状態できている。私がこの中で一番誇れるのは、重要な福井の宝を一番よく理解していることであるが、私のこれまでの人生の中では宝を磨き発展させることはできなかつた。戦略会議では、たくさんの先生の知恵を拝借しながらできなかつたことを活かしていきたいと考えています。

委員： - 経歴紹介略 - 三国はJA花咲ふくいに属している。販売額は県内でトップの100億円となっています。このうち、70億円はコメで、20億円が野菜・園芸、残り10億円が畜産・花となっています。合併当初は野菜が27～8億円あったが、価格の低下により減少しています。県内にもJAを経由せずに自ら出荷する農家があるが、京阪神の業者に聞くと、トレーサビリティの問題などで、JAの系統出荷の需用が高いということであるので、今後もJAの系統出荷の方向でと考えています。

委員： - 経歴紹介略 - 私は、今の日本は新しい時代に入っており、日本は変わらなければならないと考えています。企業・産業を通じて地域も変わっていく。日本は地方が変わらなければならないと考えています。中央は既得権益があり自ら変わることは非常に難しい。金融や海外から見た視点で貢献していきたいと考えています。金融は特に一番規制されていた分野であるので、いろいろな規制を外していく観点からの発言はできるのではないかと考えています。

国際的な視点ということであれば、アメリカにCRAというのがあって、地元で集めた資金は地元に戻元しなければならないという法律があり、融資だけでなく雇用についても厳しい規制がある。またPFIや、地域通貨についても、新しい仕組みで地域の産業なりコミュニティを築いていこうとする動きが海外でも盛んになってきており、国内でも世田谷区が取り組んでいるが、こうした知識でお役に立てるのではないかと考えています。

【意見交換】

議長： - 経歴紹介略 -

経済活性化に対して即効薬と漢方薬のどちらの視点から検討していくか、県外の委員の方にはしがらみのない立場からどのような意見でも発言して欲しい。今後の会議のあり方についてですが、その回ごとにまとめて、次回はこういうキーワードでお願いしたいということを事務局と話ながら、決めていきたいと考えています。

しかし、今回は、自由な発言をお願いします。

委員： 県にどういう課題があって、どういう方向で対応しているのかという実態がわからない。やはり県の方で、県として課題をどう踏まえて、どう整理しているのか、データ等とともにガイドラインを示して欲しい。そういう説明があれば、問題点について我々も具体的に有効的に発言していける。

事務局： 次回までに用意したい。

委員： 「福井元気宣言」には 印で産業以外にも県政全般にわたっているが、我々が議論する内容とどのように位置付けたらいいのか。

議長： 経済部分だけに絞るかどうかの問題ではないかと思うが。

知事： 福井元気宣言はそれだけで十分だとは思っていません。特に、産業や雇用は難しいとマニフェストをつくる時に感じました。幅広く発言していただければと思っています。数値目標を実現したいと思っていますが、我々だけの力だけでできるものでもないとも思っています。データについては県もいろいろ持ち合わせているが、加工しないと、そのままでは意味のないものになって

いることが多い。

議長： 発言は幅広くだけれども、雇用・新規創業といったことを重点的に。

知事： 頑張る企業をいかに支援するか、マーケティング・市場、ひとづくり、効果も求めるが、今何をしたらいいのかということ議論していただきたい。

委員： 現在は、勝ち組み、負け組みもあるがグレーのゾーンもある。戦略会議では新規産業のみ議論するのか、グレーゾーンを何とか守ろうとするところまで議論するのか。繊維産業にはグレーゾーンの企業が多く、こうした産業が基幹産業となっています。マニフェストでも1万5千人の雇用創出とあるが、グレーゾーンが全部だめになってしまえば、今ある雇用が大幅に減ってしまう。即効薬や漢方薬に加えてグレーゾーンに対するカンフル剤的なものも議論するのか。

知事： 福井元気宣言をつくり、6月議会で融資事業を予算化したが。タイプは3つあります。新しい事業を応援する融資制度、苦しい運営の中で借換をして新しい事業に取り組むための融資制度、企業を再生させるための融資制度。3つの融資制度を用意しており、これだけをといた制度にはなっていません。その中で一生懸命な企業を何とかしたいと考えている。現場は総合的であるから、一概には言うのは難しい。

委員： グレーゾーンにある企業がコアを形成しているのであれば、どうにかして助けていかなければならないのではないかと。金を使うのか、何か別の方法で助けるのかはいろいろあると思うけれども。議論していけばいいと思う。

議長： 金だけかというと思う。何かといえば、それは知恵になると思うが、底辺にある知恵や県外の知恵を拝借して、資金だけでない予算だけでない、根本のところを整理していかなければと考えています。

委員： 日本は地方から変えなければという話が出たが、テレビの経済番組を見ると国策は大企業に視点を置いている。今の不況は中小企業不況・地方不況のようなところがあり、それが国策と遊離している感じがします。地域における県や市町村は地域の企業を元気付ける策を考えていかないと。地方から変わるということは地方の中小企業を引き上げていくことだと思います。

この視点から、今ひとつ機能していないのは産学官連携である。県立大学、県産業支援センター、ビジネススクール等を網羅的にもっと活性化していくことが必要。本当の意味でのフィールドワーク、企業が何を欲しているのかといったことを、お互いに知ってどうするかということを考えていけば、これまでの異業種交流とは違った、地域における企業の方針、業種転換が生まれ、そこか

ら新たな企業家が育っていくと思います。ぜひフォーラムを強化してほしい。

委員： 国立大学の意識も近年急激に変わってきており、チャンスだと思います。あと企業のニーズを知るには同じ場で一緒に働いてみないとわからない。産学官連携を実現していくには場を何回も作っていくことが必要。

委員： 県立大学には「開かれた大学」という設立趣旨があるが、まだ象牙の塔というか敷居が高い。もっと低い所に事業があるので、横の連携さえ取っていければ、まだまだ可能性があると思います。

議長： 長野県は、廃業よりも開業の方が数が多い。従来の産業をそのままではなく、どんどん新しい企業を興していくことが必要ではないか。

委員： 今後の議論の進め方について、テーマを決めたらどうか。産業構造の話をするにしても範囲が広いので、中間取りまとめまでに何を議論するのか、どのような中間取りまとめにするのかなどを議論していったらいいのではないか。また我々の議論がまとまった段階で、それが実行可能かどうか現場の意見をヒアリングしてみることもやってみてはどうか。ここだけではなく、商工会議所、JAなどの方々の話を聞く機会を1、2回作ってみてはどうかと思う。差し当たっては、次回とその次にどのような議論をするのかを決めないで。

委員： 繊維業界は県内の特色をそのまま有する産業であるので、その特色について説明させていただきたい。

絹から人絹、人絹から合繊へ移る中で、合繊メーカーの系列に入り、機械の更新などをメーカーの債務保証でおこなってきた。最近合繊メーカーが中国に生産拠点を移し、産地は自販を進めている。量的に売れるものというのは中国に取られてしまって、質はいいが量は売れないというものが残っているが、これらは商社も扱ってくれないという二重の悩みがある。繊維産地としてイタリアの研究をしているが、横の水平分業ができており横のネットワークが確立されているが、福井は縦の分業のままきている。誰かがリードをとって共同化・協業化できればグレーが黒にはならないと思っています。もうひとつ、構造改革特区を実施することで新しい産業を産み出す原動力になってくるのかなと考えています。

議長： 今後、会議をどのように進めていけばいいかということについて、福井元気宣言を土台にして、それぞれを掘り下げていけばいいと考えていますが、どうでしょうか。

委員： 結構だと思います。ただし、それに縛られると他の意見がでてこなくなってしまうので。

議長： 繊維も県産業全体の中のひとつということで検討を進めていくということでもいいでしょうか。

委員： 繊維産業だけのことを言うのではなく、繊維産業の問題が県内産業全体の問題に通じるものと考えています。具体的には各事業者が輸出等の販路拡大を行う場合の支援組織を作るとか。

委員： 具体性をもった議論でないとアクションプランを作るのも難しくなる。次回以降は具体的な議論を進めていったほうがいいと思います。それと実現性が無ければ難しい。

委員： 県内経済の活性化ということで、繊維産業が県内の主要な部分を担っていることは間違いない。繊維の問題については、1回徹底的にあって、どこに問題があるのか、どういうところに活路があるのか、そのためにどうしたらいいのか総合的に研究してみたらいいのではないかと。繊維産業がダメになってしまったら、繊維に変わる新しい産業がすぐ生れてくるわけではない。

議長： 繊維産業がここ5年間くらいどうなっているのかという、数字の流れを出してもらえないか。繊維産業が基幹産業としてどうかというのは徹底的に議論する必要があると思っています。

事務局： 次回までに出してみます。

委員： 県海外事務所機能の再構築という意味で、コーディネーターばかりやるのではなくて、時には営業活動に打って出るという発想もあっていいのではないかと。中国が各産業の共通の市場となるならば、そうした県海外事務所の機能の見直しがあって、民ももっとリスクを背負って官民一体となって進めていく中から各産業の問題に取り組んでいくといった考え方もあるのではないかと。上海はいいものも安いものも売れている、上海を見ていくと世界が見えてくるということもあります。県の上海事務所の役割も大きい。

議長： 創業数はどのくらいですか。うちものづくりはどの程度ですか。

事務局： ものづくりの定義も難しいが、県内の創業数1,300事業所のうち製造業の数字としては3か年平均で約100事業所です。創業で多いのはサービス業。廃業は製造業が多い。

事業所を見た場合、製造業が26%ある。全国的な平均よりも多く特徴的なところとなっています。

議 長： 製造業も大事だが、農業も重要ではないか。規制を緩和していただいて、農業法人のあり方なども検討していきたいと考えています。

あと、先端産業の誘致ということで、県外企業で上場一部の企業の工場の立地が少ないのではないかと。何社ぐらいか。

4千万円以上の申告所得の企業数の落ち込みが北陸3県では福井県が一番落ち込んでいます。そういう面からも先端産業の誘致を議論していきたい。人づくりについても取り組んでいきたい。

第3回目の会議で中間取りまとめとなっているが、こんなに早いのですか。9月補正予算をあまり気にしてもかえって良くないのではないかと。

事務局： できるだけ一部を9月補正予算に間に合うような形でと考えている。文章にするところまでは考えていません。項目立てさせていただいたものの中から、できるものから補正予算で対応するという趣旨で考えています。

議 長： では、元気な産業の両ページを土台にして進めさせてもらいます。やる気のある企業、販路開拓、先端産業の誘致、産官学連携これを含めた議論を次回させていただいて、できればいいアイデアがあれば9月補正にということであるが、あまりそれにはとらわれずに。

各委員のことは事前に資料を送付してほしい。

次回の日程は、第2回は13日の10:00から約2時間、第2回は26日の16時か17時から約2時程度、場所は今回と同じで。26日に中間取りまとめということで。

委 員： スーパーハイウェイについて現状がどうなっているかわかる資料がないですか。

事務局： 資料を用意し、全委員に送らせてもらいます。

委 員： JAの現場に20~40代のフリーターが多い。実際には繊維産業をされて失業された方もいるらしい。人材派遣会社では、英語が得意な人、大型免許を持っている人、パソコンが上手な人などと登録するような制度があると聞いています。

議 長： 人の問題もいずれ取り組んでいきたい。8月の2回は、福井元気宣言の両ページと繊維産業について議論していきたい。繊維産業のグレーゾーンをどうするかということについても、難しい問題ではあるが、会議の性質上、きちっと謳っていくべきであると考えています。

【閉会】